



共生の時代

'07
7月

●発行:グリーンコープ連合理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876

生活協同組合連合会
グリーンコープ連合
第十五期 通常総会開催

2007年度スター人



採決票を挙げる代議員

4・5面に関連記事

Contents

2007年シャボン玉フォーラム in 神奈川 生まれかわる水・いのち・資源 ー市民参加型ですすめる資源循環型社会ー	2
うちのメーカー・うちの生産者 ㊤ 夢牧場 グリーンファーム但馬	3
グリーンコープ連合第十五期通常総会 たくましく、しなやかに 未来に生きる生協へと飛躍します	4・5
豊かな自然や生命を守るために 放射能の垂れ流し、許しません	6
グリーンコープ生協おおい発 輸入港もないのに遺伝子組み換えナタネが自生!?	7

大阪で再びグリーンインロープのついでに出会う

プロフィール
1962年岡山県に生まれ育つ。結婚後の8年間はグリーンコープ生協ひろしまの組合員。現在はグリーンコープ生協おおさかの組合員、理事。家族は夫、長女(中2)、長男(小6)の4人



グリーンコープ生協おおさか「みんなのたべもの委員会」委員長 **中村 富美子**さん

1 988年九州で産声をあげたグリーンコープの輪は次第に拡がり、2005年にはグリーンコープ生協おおさかが設立された。かつてグリーンコープの組合員で現在大阪に住む人たちが「大阪にグリーンコープを」という声があがり、それが契機となった。

当時中村さんも夫の転勤で広島から大阪の豊中市に移り住んでいた。グリーンコープの商品が手に入らなくなつて3年経っていたが、ボディソープだけは友だちに頼んで送ってもらっていた。ある日中村さんのもとにも設立の話が届き、マーケティング的に大丈夫なのか、と一瞬たじろいだ。大阪はまごうことない大都会。生まれ育った岡山や結婚後に暮らした広島とは比較にならない。それでもとかく設立発起人名簿に名前を連ねた。

「それからはほんとうに大変でした」。集まったメンバーは、グリーンコープに対する経験や思い入れがそれぞれ違っていたので、それぞれのグリーンコープ像が出てきたのだ。そうした中から「自分たちなりにやっていた方がいい」と落ちていたのは設立から1年を過ぎる頃だった。春、秋、春と「組合員のついで」を企画し、間に学習会や料理講習会も入れた。リピーターも増え、その人たちが現在、吹田と岸和田の2カ所の組合員活動を支えてくれるまでになった。組合員はすでに4000人を超えている。

「大阪には食材一つとっても、一本800円のびん牛乳もあります。反面、安いものもたくさんあります。生き方も多様だし、ここで暮らすには何より選択眼がいるんです」。「その点グリーンコープには一本心が通っているでしょ。商品の向こうに生産者の顔が見え、環境のことまで考えて商品が作られているのが分かります」。

娘のお弁当にアスパラのベーコン巻きを入れた。お友だちもその日ベーコン巻きが入っていたらしく、「同じだね」と言っと、他の子から「それはベーコンじゃなく豚巻きだろ」と言われたらしい。「豚の色だ、ベーコンの色ではないよ」と周りの子どもたちも参加して娘のお弁当のアスパラに巻かれているのが、豚肉なのかベーコンなのか、という議論になったそうだ。娘が「ベーコンは豚肉か

送 信

らできていなのだから豚肉の色をしているのが普通なんだよ」と言っていて、パクパク食べはじめたところでの話は終わったそうだ。「ほんとうはそのベーコンの色の方があやしいんだよと言いたかったけど、〇〇ちゃんがかわいそうだから言えなかった」とくやしそうに話す娘は、将来楽しく活動する組合員になると思う。

グリーンコープ生協おおさか副理事長
小松 実加

2007年 シャボン玉フォーラム in 神奈川

生まれかわる水・いのち・資源

市民参加型ですすめる資源循環型社会

1日目 全体会

開会式
オープニングイベント
石けん利用伸張率
優秀団体表彰
基調講演
パネルディスカッション
全体交流会

2日目 分科会

第1分科会
「石けんっていいじゃん」
第2分科会
「石けん運動のこれから」
第3分科会
「泡立つ川から泳げる川へ
～海と川と森からの発信～」
第4分科会
「市民と自治体による環境自治体づくり
～その時自治体が動いた」
第5分科会
「花咲く地域エネルギーを考える」
第6分科会
「社会運動としての川崎市民石けんプラント」
第7分科会
「石けんで市民事業を始める！
～地域へあわメッセージ」

さまざまな生命を育む豊かな水。限りある水を大切にしていくなために、せっけん使用を入り口として水環境を考える「シャボン玉フォーラム in 神奈川」（主催：協石連《協同組合石けん運動連絡会》・4月21～22日）が開催されました。全国のせっけん運動に取り組む生協や団体から約700人が会場となった川崎市教育文化会館に集まりました。全体会と、2日目に行われた分科会の中から第1・第2分科会を紹介します。なお、2008年のシャボン玉フォーラムはグリーンコープ生協ふくおかが主催団体となって開催されることになっています。



2006年度の石けん利用伸張率優秀団体(4団体)にグリーンコープ生協おかやまが表彰された。代理で賞状を受け取る連絡商品検討委員長・横慶子さん(左)



「グローバルな水環境と私たちの課題」

全体会・第一部 基調講演

水資源の豊かな日本に住む私たちが考えていく必要がある課題の一つに、「パーチャルウォーター」（仮想投入水量）があります。食料自給率の低い日本はその多くを輸入に頼っており、作物生産などに使われた水に換算すると年間約500億トンに達するパーチャルウォーターとして輸入していることになるのです。洗ったり、飲んだりする水はもとより、食料生産・産業などあらゆるものに必要な水をグローバルにとらえ、世界の水資源問題にも目を向ける必要があります。



講師
東京大学生産技術研究所
教授 沖 大幹 さん

全体会・第二部 パネル ディスカッション

フォーラムのテーマ、「生まれかわる水・いのち・資源—市民参加型ですすめる資源循環型社会—」の具体化を目的にディスカッションが行われた。さまざまな地域で実践されている市民参加型の取り組み報告と今後に向けての提起があった。地域独自の運動と、そこで培われる人と人とのつながりが資源循環型のまちづくりに必要であり、その役割を果たしているのがせっけん運動であるということを確認しあった。



NPOコミュニティスクール・まちデザイン理事長 近藤恵津子さん
浅川流域市民フォーラム 石田 幸彦さん
NPO川崎市民石けんプラント理事長 薄木かよ子さん

「石けんっていいじゃん」

第一分科会



取り組みを報告するグリーンコープ生協ふくおか・田中紀子さん(2008年シャボン玉フォーラム実行委員長)

第一分科会は二部構成で行われた。第一部は北里大名誉教授・宮田幹夫さんによる「化学物質と子どもの健康」をテーマにした講演。身体への化学物質汚染の対策として体内への化学物質の侵入総量を減らし、体内からの排出を図る必要性があるとのこと。そのためには添加物のない食品を選び、バランスのとれた食生活、早寝早起き、十分な休養、適度な運動、ストレスの発散などがあげられた。第二部は各地域からのせっけん利用推進活動報告。かわさき生活クラブ生協からはドラム式洗濯機使用者240人にせっけんでの洗濯モニター調査の結果、使用上のトラブルもなく問題がないことが実証されたことが報告された。グリーンコープ生協ふくおからは組合員にせっけんの利用を広げる取り組みの元気な報告があった。横浜みなみ生活クラブ生協からの報告では、出前講座によるナチュラルクリーニングの実演風景を寸劇で紹介。換気扇フィルターのお掃除が落ちる、目からうるこのデモンストラーションに会場が盛り上がった。エスケール石鹸からは、手洗いの洗浄剤に除菌入りが見込まれているが、せっけんで十分との報告があった。分科会となった。

「石けん運動のこれから」

第二分科会

全国の多くの自治体では水環境を守るため、せっけんの使用推進に向けた条例や方針・要綱などの施策が掲げられている。学校給食の食器の洗浄にせっけんを使うなど、市民との連携でさまざまな運動が展開されてきた。現在、そうしたせっけん運動に取り組む自治体に対して、要綱・指針の見直しや廃止を促すという日本石鹸洗剤工業会の動きがある。

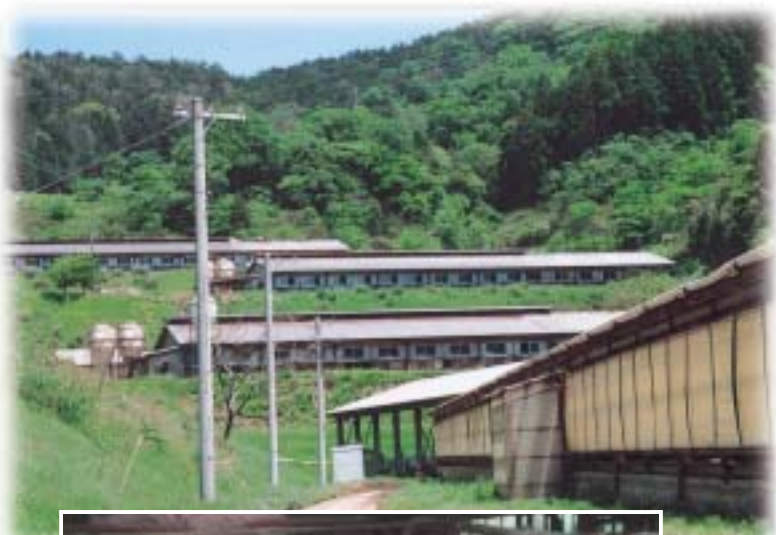
分科会ではそのような動きに対する協石連からの問題提起や市民や自治体からの報告、P、R、T、R法（化学物質排出把握管理促進法）をもとにした各県の合成洗剤排出データの報告があった。質疑応答では、公開討論会などを行ってはどうかというせっけんメーカーの立場からの発言もあり、これからのせっけん運動の方向性を探る意見交換があった。

※1せっけん・洗剤メーカーと原料油脂メーカーで構成される業界団体
※2家庭や工場などから有害化学物質がどれくらい環境へ排出されたかを国が集計・公表する制度



新たな産直豚肉の産地

夢牧場 グリーンファーム但馬



▶ 出荷をひかえた母豚たち。1回に約14頭、年に約2回出荷させる



グリーンコープは、生産者と共に顔の見える産直関係を作り上げてきた。現在、豚肉の産直産地は、綾豚会(宮崎県)、紅会(福岡県・佐賀県)、西岳高原牧場(長崎県)、清村養豚場(熊本県)の4つ。2007年、新たな産地として「夢牧場グリーンファーム但馬」(以下夢牧場)が加わった。

出荷がはじまったばかりの夢牧場を訪ね、生産者の遠藤太郎さんと史郎さんに産直豚肉作りにおける意気込みを聞いた。

姫

路市内から車で2時間、標高500m程の緑豊かな山の斜面に立ち並ぶ八鹿畜産団地に夢牧場はある。運営するのは遠藤太郎さんと史郎さん兄弟だ。

代表取締役を務める父親遠藤威宣さんは綾豚会のメンバーでもある。グリーンコープの新たな産直豚肉の産地を、できれば関西地域にという相談がはじまった時期に、飼料メーカーから綾豚会に紹介されたのがこの地だった。

夢牧場は、もともと畜産団地に5戸あった養豚家が高齢化のために廃業したあとを利用して。広さは約23ha、6つの畜舎や堆肥設備などをそのままの状態譲り受けた。

養豚業の夢を託す

「夢牧場グリーンファーム但馬」と名付けたのは父です。養豚にかける自分の夢を僕たちに託したいのかもしれない。



遠藤 太郎さん

主な飼料原料	
穀類	油粕類
non-GMOトウモロコシ	non-GMO大豆粕
non-GMOきな粉	non-GMOなたね粕

● non-GMO=遺伝子組み換え体でない
● トウモロコシはPHF(外国からの輸入農産物に収穫後散布される防カビ剤や保存料などの農薬を散布していない)



遠藤 史郎さん

太郎さんは宮崎に拠点を置き、父親と共に豚の世話をしながら事務処理や生産者の若い仲間たちと加工品の開発なども行う。グリーンコープの組合員との交流に意向もあつた。

現在は宮崎と兵庫を定期的に出向くこともあるが、母豚130頭、肥育豚約900頭の餌やりや畜舎の清掃などの世話をしているのは史郎さんとアルバイトの2人。「子どもの頃から親の仕事を見て育ったので迷いはありませんでした」と事もなげに言う史郎さん。

たばかりの頃は手作業で餌やりをしていた。その後自動給餌機やパイプ類、畜舎の柵など、必要な設備を整えていった。夢牧場の近隣にはほかに養豚家がなく、必要な資材が現地では入手しづらいためだ。太郎さんは資材を運ぶために片道10時間以上かかる道をトラックで何度も往復した。

生命を育み 心をこらう

2007年4月から本格的な出荷がスタートした。関西・中国地方の組合員を中心に、グリーンコープ全体の産直豚肉供給量の約5%を占めている。初めは月100頭だった出荷頭数もコンスタントに増えてきた。安定してくる夏以降は200頭を目標にしている。

顔の見える関係を大切に

豚はデリケートな動物で、ストレスや夏の暑さに弱く、冬の寒さには強いと言われている。夢牧場のある但馬地方は日本海側気候で、冬は晴れ間が少なく1mを超える豪雪地帯だ。昨年は暖冬だったため大雪に遭うことはなかったが、想像もつかない程の雪と寒さを考える。

夢牧場は繁殖―肥育―出荷までに時間と体力がかかり、休む間がほとんどない。養豚業を志そうとする若者も途中で断念してしまうことが少なくないという。だからこそ、迷うことなく養豚業を受け継いだ夢牧場に寄せるグリーンコープの組合員の期待は大きいものがある。「組合員さんとの交流に積極的に出かけて行きたい」と太郎さん。

1年前から現地に赴き、一人暮らしをしながら畜舎の整備と肥育を同時進行で行い、準備を整えていった。譲り受けた畜舎は26年前、県の畜産支援事業を受けて建設された頑丈な造り。現在では一般的になっている自動給餌機もなく、はじめ

産者から購入した種豚(雄・雌共に)を計画的に交配させ、産まれた子豚を肥育するという点だ。

夢牧場はスタートしたばかり。今後はグリーンコープと共に顔の見える関係を育て、生命を育む食への運動を広げていく仲間として共に歩んでいくにちがいない。

夢牧場グリーンファーム但馬産直豚飼育の流れ



▲体の大きな雄

▲母乳をたっぷり飲んで育つ子豚たち

病気に強い豚を育てる第一歩は母乳の授乳期間をより長くすること。一般は生後25日以内だが、グリーンコープは27日以上としている

子豚期 60~80日齢

- ・子豚期から出荷までの全飼育期間同じ飼料を与える
- ・魚粉などを配合することもあるが、動物由来(哺乳類、鳥類)の原料は使用しない
- ・開放型の豚舎でのびのびと育てる(1頭あたり1m²以上)
- ・グリーンコープの産直豚は合成抗菌剤や成長を促すホルモン剤などは一切使用しない
- ・抗生物質も100日齢以降は使用しない



出荷 180~210日齢



糞は堆肥に加工し、地域の農家へ出荷する

と老朽化した畜舎の改修工事は秋までには終えなければならぬ。「頑丈な造りが災いして思うようにすすまないのです」と兄弟は口を揃えて笑う。

「意見のくい違いから言い争いになることもありませんが、いいコンビだと思えます。今は無我夢中で突っ走っているという感じです」と史郎さん。

やかに 三協へと飛躍します

グリーンコープは創業世代から現在を経て次の世代を見据え、より地域に根ざしたグリーンコープ運動を推進し、日々邁進しています。厳しくなる経済や社会状況に耐え得る強靱な、それでいてしなやかさを有する生協としてのしくみを整える準備をはじめました。

今総会は「一つのグリーンコープ」として連帯していくための確認をする総会となりました。これによって、グリーンコープは未来に生きる生協として、さらに飛躍をめざすこととなります。その新たな一歩を踏み出しました。

私たちは自らを革新し、組合員主権を尊重し貫く「一つのグリーンコープ」の形成をめざします



第一号議案を提案する
グリーンコープ生協ふくおか
専務理事 東原 晃一郎 さん

私たちはグリーンコープ連合を19年前に誕生させ、当時の苦境を脱し、その後の成長を手にしました。グリーンコープの食べもの・商品、運動・組織、事業・経営、いずれもそうでした。また、その地に住む人たちの思いを具現するグリーンコープとして

大阪まで広がりました。各県で全県連帯の歩みもありました。これらは各々の歴史と歩み一つにして、グリーンコープとして時代と社会を切り開く足取りでした。

創業世代の壮絶な努力に支えられたグリーンコープの到達点を踏まえた時、私たちに共通する未来の「安定と成熟」というものを、安易にはなく、そういうものとして認識される必要があります。それは10年後を展望し、検討していくはじまりでした。

**お互いの関係、グリーンコープ連帯をどう
していこうと考えるのを考えてきました**

グリーンコープは、連帯していく基本的なあり方を「単純な集権論にも、単純な分権論にも与しない」としてきました。グリーンコープ連合を誕生させ、集権し、集権したグリーンコープ連合を会員生協に下降させ、各会員生協は地域に下降しよう、としてきました。

つまり、「規模を獲得」する対関係に「組合員から生協が遠くならない」ように、「会員生協主権や組合員主権を実感できる」ように、グリーンコープ連合も会員生協も、具体的な構造と運営づくりに知恵を出しあい、考え、工夫し努力を続けてきました。それによって、私たちに納得できるあり方をつくることができましたと言えます。



しかし、そうしたグリーンコープ連合の列の組み方について、現状に満足し安住してよいのかという問いはずっと存在していました。評価した上で「成功体験を絶対化してないか、真にあるべき姿に向かい不断に革新していく可能性を喪失していないか」を自らに問いかけ、真剣に考えてきました。

その検討によって、「会員生協自らが自分たちの将来のこととして考えていく」というものとなりました。同時にその分、「会員生協自身が主体となつて判断する」に近づけることができました。

このように、19年のグリーンコープ連帯の軌跡とそこから導き出された総括によって、グリーンコープ共同の設立へと結実していくことになりました。その際、大きく進展してきたこと、まだできて

いないことを確認し、継承し引き継いでいく責任があります。例えば、単協商品開発・リニューアルの取り組みについては、現状の課題である会員生協とグリーンコープ連合の事務局間の連携を図り、一層前進させていくことにします。また、「市民」としての組合員の自立・活性化と「職員」としての労働者の自立・活性化をすすめる、この両者を架橋させていくことが課題として残されています。さらにグリーンコープの広がりや活性化を体現してきた「ワーカーズ」について、ワーカーズの組織同士およびワーカーズと組合員との連帯については長期的な展望の相談と整理が求められています。なお、それらが形成・成長・発展・成熟していく中に、グリーンコープと人間の可能性を賭けるべきであると考えます。

「一つのグリーンコープ」に向かう連帯のあり方」「地域組合員との関係」「グリーンコープが21世紀を生き抜いていく意味」について共有・確認してきました

状況に呼応していくために、会員生協間および会員生協とグリーンコープ連合の関係性と連帯のあり方を模索することから検討を深め、以下のようなことから共有・確認しました。

- ・ 19年かけて、「グリーンコープ」として生き続けるために、グリーンコープ連合に集権させ、同時にグリーンコープ連合が会員生協に下降することをいねいに渾身かけて貫いてきました。だからこそ今のグリーンコープが存在できています。そして今後は、これまでの私たちがやることを貫き、「会員生協がグリーンコープ連合をつくる」から

いらないことを確認し、継承し引き継いでいく責任があります。例えば、単協商品開発・リニューアルの取り組みについては、現状の課題である会員生協とグリーンコープ連合の事務局間の連携を図り、一層前進させていくことにします。また、「市民」としての組合員の自立・活性化と「職員」としての労働者の自立・活性化をすすめる、この両者を架橋させていくことが課題として残されています。さらにグリーンコープの広がりや活性化を体現してきた「ワーカーズ」について、ワーカーズの組織同士およびワーカーズと組合員との連帯については長期的な展望の相談と整理が求められています。なお、それらが形成・成長・発展・成熟していく中に、グリーンコープと人間の可能性を賭けるべきであると考えます。

一体的・効果的に活用しあいます。もちろんそれは各会員生協の独自性を尊重した上でのことです。

- ・ 地域組合員との関係づくりについて、グリーンコープの本質的な主体である地域組合員にもう一段下降することで、組合員主権を尊重し貫きます。

グリーンコープが21世紀を生き抜いていく意味について、次のように共有・確認しました。どんな困難が来ようともあるべきグリーンコープを絶対に守りぬいていくことが地域組合員への私たちの責任です。多くの経営課題や政治経済から確実にやって来る困難などを正面から引き受け、

第十五期通常総会 スローガン

グリーンコープ連帯の到達点を確認すると共に、新たな連帯のカタチとしての「グリーンコープ共同体」の形成を各グリーンコープ生協と共にめざし、未来を創る新しいグリーンコープとして前進をはじめましょう。

組合員による「安心・安全」な商品開発や産地交流などを通して、経済効率優先の商品ではなく、「生命を育む食べもの運動」を共に進めていきたいと思います。

組合員主権を貫く協同組合として歩み続けてきたグリーンコープの20周年記念事業を成功させ、社会的な存在としてのグリーンコープを登場させましょう。

20周年記念事業を通して、多くの仲間を迎え入れ、組合員同士のコミュニケーションを創り出し、「生命・自然・くらし」を守るグリーンコープ運動と事業をさらに推進させましょう。

生活再生事業や家計とくらしの応援活動、子育て応援など、助け合いの運動と事業を社会福祉法人煌としてワーカーズと共に進めていきたいと思います。

遣伝子組み換えや原発、地球温暖化などの社会的な問題に全国の市民団体と共に取り組み、グリーンコープのできるところから解決していきましょう。

ネグロスや韓国、パレスチナや東ティモール、そしてゲランドと連帯・交流することで、「南と北」「北と北」との共生・連帯をさらに進めていきたいと思います。

総会で選任された役員

グリーンコープ生協ふくおか	鳥原 良子	グリーンコープかごしま生協	グリーンコープ生協とっとり
グリーンコープ生協ふくおか	本田 慎一	グリーンコープかごしま生協	グリーンコープ生協(島根)
グリーンコープ生協ふくおか	榎 慶子	グリーンコープ生協さが	グリーンコープ生協さが
グリーンコープ生協ふくおか	本河しのぶ	グリーンコープ生協ふくおか	グリーンコープ生協(長崎)
グリーンコープ生協ふくおか	園田由紀子	グリーンコープ生協ふくおか	グリーンコープ生協みやざき
グリーンコープ生協さが	西本 幸子	グリーンコープ生協ふくおか	
グリーンコープ生協さが	片岡 宏明	グリーンコープ連合	
グリーンコープ生協(長崎)	村上 省三	グリーンコープ連合	
グリーンコープ生協(長崎)	小笠原尚隆	グリーンコープ連合	
グリーンコープ生協おいた	鹿毛 優子	グリーンコープ連合	
グリーンコープ生協おいた			
グリーンコープ生協くまもと			
グリーンコープ生協くまもと			
グリーンコープ生協くまもと			
グリーンコープ生協くまもと			
グリーンコープ生協みやざき			
グリーンコープ生協みやざき			

幅田 誠
横路 瑠美
松尾 篤美
長田 計司
後藤 輝美

「監事」

たくましく、しなやかに 未来に生きる生協

2007年6月13日
グリーンコープ連合
第十五期通常総会

組織委員会は、「せつけん」環境「平和」「アジアとの連帯」という取り組みが地域に根ざした活動となるよう、相談協議しながらすすめてきました。今後も、生命を大切に、自然と暮らしを守るグリーンコープ運動を展開していく会員生協の活動を支援していきます。



組織委員長
園田 由紀子 さん

「単協商品開発・リニューアルの取り組み」を共有化し、オールグリーンコープの商品として確認していくのが、委員会の課題の一つです。今後さらに「単協が開発する」から、「オールグリーンコープ」としての視点に立って、委員会内で率直な意見交換をしながら、グリーンコープ商品を生み出していきます。



商品検討委員長
槇 慶子 さん

グリーンコープ連合委員会報告



産直・交流委員長
本河 しのぶ さん

生産者やメーカーとの交流をとおり、組合員がグリーンコープの商品を利用していただけるような取り組みをしてきました。例えば、りんご・みかんについては、1年をとおりして生産者と組合員が出会う場をつくってきました。今後もオールグリーンコープとして活発な交流ができるよう準備していくことにします。



福祉委員長
西本 幸子 さん

第一衛材(株)の視察では利用者との関係を大切にされた販売方法を取っていることなど、グリーンコープと同じ考え方をしていることを知り、また、2007年度委員会を再編し、オールグリーンコープとして相談・共有できる委員会として再スタートしました。今後も会員生協に役立つような活動をしていきます。



新役員

議案採決の結果			
代議員184人	賛成	反対	保留
第一号議案 2006年度活動報告承認の件	184	0	0
第二号議案 2006年度決算報告承認の件(監査報告を含む)	184	0	0
第三号議案 2007年度活動方針決定の件	184	0	0
第四号議案 2007年度事業計画・予算決定の件	184	0	0
第五号議案 借入金最高限度額決定の件	184	0	0
第六号議案 「生活協同組合連合会グリーンコープ共同体(仮称)」の設立及び加入承認の件	184	0	0
第七号議案 役員選出の件	184	0	0

2008年は、グリーンコープ連合誕生20年です。20年を節目として私たちの「グリーンコープ商品・運動」として、これまでできたこと、まだできていないことを点検・



グリーンコープ連合専務理事
片岡 宏明 さん

私たちはその自己革新として、新たな連帯組織「生活協同組合連合会グリーンコープ共同体(仮称)」の設立に向かいます

「会員生協とグリーンコープ連合が共同体をつくる」という新たなチャレンジをすることにします。その上で会員生協連帯によって、グリーンコープの内実を形成していくことにします。

「会員生協間の関係」については、グリーンコープ共同体として「一つのグリーンコープ」に向かうことで、相互に相対化しあい、話し合いをオールグリーンコープですすめていきます。

「一つのグリーンコープ」に向かうグリーンコープ共同体での検討と実践により、私たちすべての財産(ヒト、モノ、カネ、ノウハウ、チエ)を今の所有権の壁を越えて、

立の原点を守り抜いた上で生き抜いていく、それが「グリーンコープ」が生き残っていくという意味です。また、自然環境も社会環境も、ほんとうに激変が予測されます。グリーンコープの真価がさらに問われていく時代に向かっています。そうした時代、地域と社会でたくさんの人と出会い、暮らしの身近な課題から、それが世界と地球につながることを願い、一層誠実に、かつ楽しく、グリーンコープの活動が展開される必要があります。つまり、設立の原点の中心身を深め、豊かに広げていくことを、もう一つ「グリーンコープ」が生き残っていく」との意味として押さえます。

確認しあって、これからのことをさらに深く練っていく流れにつなげていくことにします。

グリーンコープ連合は第十五期通常総会において、「生活協同組合連合会グリーンコープ共同体(仮称)」設立発起人として積極的に発起人会へ参加し、設立へ向けた準備と設立総会の開催、設立総会で加入することを確認します。

第十五期通常総会

総会感想

草場 広宣
白木 豊彦
坂口 陽子
水嶋 康彦
上田 育恵
新田 ひとみ
中川 孝子
寺本 敏徳
吉川 みるみ
谷川 大輔
吉田 文子
工藤 正直
宮中 智美
一丸 直子
林 真紀
田原 幸子
小松 実加

グリーンコープ生協おおさか
グリーンコープ生協ひょうご
グリーンコープ生協おかやま
グリーンコープ生協おかやま
グリーンコープ生協とっとり
グリーンコープ生協とっとり
グリーンコープ生協(島根)
グリーンコープ生協(島根)
グリーンコープ生協ひろしま
グリーンコープ生協ひろしま
グリーンコープやまぐち生協
グリーンコープやまぐち生協
グリーンコープ生協ふくおか
グリーンコープ生協ふくおか
グリーンコープ生協ふくおか
グリーンコープ生協ふくおか
グリーンコープ生協ふくおか

東原晃一郎
行岡みち子
宮崎 正義
福田 正三
江里 俊之
田中 裕子
伊藤 正樹
後藤 典子
松本 弘信
萱嶋 教代
松本 豊
中島 明美
久米田 薫
山本 睦子
佐渡 公成
杉尾紀美子
大橋 年徳



グリーンコープ
やまぐち生協
藤田 陽子 さん

グリーンコープが共同体へ向かうという、大きな節目の年。また2008年はグリーンコープ誕生20年。連合の歩みを分かりやすく話していただき、改めてグリーンコープの歴史に感謝したいと思った。各委員長の報告では活発なグリーンコープの委員会活動のようすがよく分かった。また、社会状況に不安はあるが、勇気を持って歩いていきたいとの片岡専務の報告にはとても感動した。



グリーンコープ生協
とっとり
小椋 あけみ さん

ととりの組合員数は少ないが、今、地域組合員とのコミュニケーションをとりあい、地域に根ざしていることと頑張っている。一人ひとりの組合員を大切にするという点ではグリーンコープは「個」を大切に生協であることがとてもよく分かった。地域で活動することがどんなに大事か確認できたことで元気をもらえた。



放射能の垂れ流し、許しません

豊かな自然や生命を守るために

青森県六ヶ所村にある使用済み核燃料再処理工場の本格稼働が11月にもはじまろうとしています。それによる放射能汚染を危惧し、グリーンコープをはじめ生活クラブ生協や大地を守る会、日本消費者連盟など6団体がネットワークを結成し、再処理工場の本格稼働反対運動に取り組むことになりました。

再 処理工場は、日本全国の原子力発電所から運びこまれた使用済み核燃料からプルトニウムとウランを抽出する施設です。普通の原発と大きく違う点は、大気中や海中に大量の放射能を排出してしまうということです。

【このち・自然・暮らしを守る】
日常的に放射能を垂れ流すことが再処理工場の大きな問題と見えますが、ひとたび事故が起これば、想像を絶する被害が予想されます。放射能に触まれるのは人間だけではなく、自然界の生きものたち、すべてが汚染

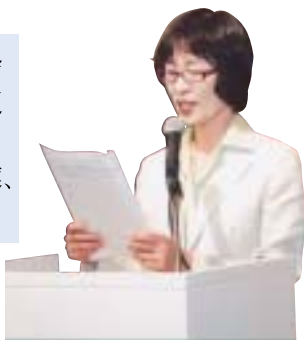
されてしまうのです。6団体が連携して立ち上げた「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワークではスタートにあたって、共同の声明を確認しました。今後、青森での反対集会や署名活動、再処理工場を受け入れた青森県六ヶ所村や原子力政策の最高責任者である政府の関係機関にメッセージカードを送る取り組みなど、まずは11月の本格稼働阻止に向けて、生産者と共に運動を展開していくことになっていきます(左表参照)。

今後の取り組みスケジュール

取り組み	日時・会場	内容
キックオフ集会	7月28日(土) 東京	全国ネットワークの発足と今後の運動をアピールし、ネットワークへの参加を社会に向けて呼びかける
現地集会	8月25日(土) 青森市文化会館	六ヶ所再処理工場がある青森に市民や生産者などが結集し、本格稼働反対をアピールする
署名活動	7月下旬から8月にかけて 展開予定	組合員に再処理工場本格稼働阻止を呼びかける署名用紙を配布。国や自治体に提出する
メッセージカード作戦	展開時期は未定	再処理工場本格稼働に反対する組合員一人ひとりの思いや願いをカードにしたため、国や自治体に反対の意志を届ける

※取り組み内容や日程は変更になることもあります

グリーンコープ連合第十五期通常総会において、「『六ヶ所再処理工場』に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク」の共同声明を特別決議として提案、満場一致で採択されました。



特別決議を読み上げるグリーンコープ連合理事・後藤典子さん<グリーンコープ生協(長崎) 理事長>

私たちは、六ヶ所村の使用済み核燃料再処理工場の本格稼働に反対します! ～豊かな自然、食べ物、そして生命を守る運動を呼びかけます～

青森県六ヶ所村にある「六ヶ所再処理工場」は、日本国内の各原子力発電所で燃やされた使用済み核燃料から、燃え残りのウランとプルトニウムを取り出す化学工場です。その本格稼働が、今年の11月にもはじまろうとしています。

私たちは、この「六ヶ所再処理工場」の本格稼働に反対し、その中止を求めます。

「六ヶ所再処理工場」は、本格稼働時、民生用では世界最大規模となる年間800トンもの使用済み核燃料を処理し、その過程で、大気中や海中に大量の放射能を放出します。放射能は、工場敷地内の排気塔から空に、沖合3km地点までひかれた放水管から海に放出されます。大気中には、クリプトン85(半減期10.76年)、トリチウム(半減期12年)、炭素14(半減期5730年)、ヨウ素129(半減期1570万年)、ヨウ素131(半減期8日)などの放射能が、海中には、トリチウム、ヨウ素129、ヨウ素131など、多種類の放射能を一挙に放出します。

しかも、「原子力発電所が1年間で排出する量」に匹敵する膨大な放射能をたった1日で放出し、それを本格稼働の予定年数とされる40年もの間、放出し続けることとなります。放出された放射能は消えることなく空と海の両方にひろがり、東北地方はもとより東日本全域が、放射能汚染の直接的な脅威と恐怖にさらされます。放射能はプランクトンや魚、植物等によって生体濃縮され、人間が食べ物から摂取した際には数万倍から数100万倍の濃度になると予想され、実際に再処理工場が稼働しているイギリスやフランスでも放射能の海洋汚染が大きな問題になっています。

放射能汚染は、自然環境とあらゆる生物に深刻な打撃を与えます。その脅威と恐怖は現地の人びとだけの問題ではなく、豊かな農畜水産物の恵みをうけてきた私たち全体の問題です。私たちは、放射能汚染という負の遺産を将来に残さず、これからも安心して国産の農産物、畜産物、海産物を食べ続けたいのです。

すでに沿岸の自治体では、海への放射能放出を規制する法律制定を求める請願を採択するなどの動きが出ており、全国各地で中止を求めるさまざまな取り組みが展開されています。

私たちもまた、「六ヶ所再処理工場」による放射能汚染を阻止することを目的とし、生産者と連携し、本格稼働の中止を強く求めていきます。

この目的を実現させるために、

- 1) 私たちは、放射能汚染による風評被害や実被害を発生させないように行動する決意を表明します。
- 2) 私たちは、自主的に放射能汚染を監視し、自然環境や第一次産業を守り育てることを宣言します。
- 3) 私たちは、生産者と連携し、産地と消費者をつなげ続けていくことを宣言します。
- 4) 私たちは、「六ヶ所再処理工場」による空と海の放射能汚染に反対し、豊かな自然環境と生命と食べ物を守る運動の大きなうねりを、ともに創ることを呼びかけます。

2007年6月13日

「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク

呼びかけ団体(2007年6月13日現在)

- 生活協同組合あいコープみやぎ(理事長 吉武洋子)
- 生活協同組合連合会きらり(会長 奥万里子)
- 生活協同組合連合会グリーンコープ連合(会長 吉田文子)
- 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会(会長 加藤好一)
- 大地を守る会(会長 藤田和芳)
- 特定非営利活動法人 日本消費者連盟(代表運営委員 富山洋子)

第十五期通常総会 (6月13日開催) で
2007年度「共生の時代」方針が
以下のように可決・承認されました

●位置付け

- グリーンコープの機関紙として、グリーンコープ共同体への動きをグリーンコープ運動の成熟と合わせて、組合員に情報発信をしていきます。
- 37万人の組合員とコミュニケーションをしていく媒体としての役割を担っていきます。
- 社会に向けても、グリーンコープ運動を広めていきます。
- グリーンコープ運動を言葉化し、歴史として記録していきます。

●企画方針

- グリーンコープの食べもの運動を精力的にすすめる会員生協と、そこで活動する組合員の動きを追い、「商品を食べものに戻す」運動を総合的に捉え、伝えていきます。
- 会員生協のさまざまな取り組みに注目し、豊かな地域をオールグリーンコープとして共有できるように、ていねいに掲載していきます。
- 組合員による産直・交流の様子を通して、グリーンコープ商品の安心・安全を伝えていきます。
- 組織活動課題を追い、グリーンコープ運動の広がりの一翼を担います。また、びんやトレーの回収データを掲載し、グリーンコープのリユース・リサイクルの取り組みをアピールしていきます。
- グリーンコープの主体である組合員の生き生きした活動を掲載していきます。また、生産者やメーカーを取材し、それを通して、グリーンコープ商品の良さやこだわりを伝えていきます。
- 理事会発のグリーンコープ運動の取り組みについて、機を逃さず情報発信していきます。

●編集方針

- 記事の内容の新鮮さ、正確さを追求します。
- 会員生協や地域のワーカーズとの連携を密にし、より多くの組合員の視点を盛り込み、親しみのある紙面づくりをめざします。
- 編集に関するスキルアップに努め、機関紙としての精度を高めていきます。
- グリーンコープの理念や考え方をイラストや写真などを駆使し、分かりやすくビジュアルに表現していきます。

輸入港もないのに

遺伝子組み換え

GMナタネが自生!?



▲県議会(議長)へ請願書提出

▶採種した菜の花を一つずつていねいに検査(1次)する組合員



「遺伝子組み換えナタネの自生・交雑の防止に関する意見書提出に関する請願」が大分県の県議会で採択されました。そのようすについて報告してもらいました。

2005年からグリーンコープ全体ではじまったGMナタネの自生調査活動。2005年、おおいたは2カ所を調査し2カ所とも陰性でした。大分県には輸入港も搾油工場もないので「多分検出されないだろう」と安心してしま

た。しかし、全国調査の結果、内陸部でもGMナタネの自生が発見されたことを知り、2006年度は調査地点を19カ所に増やしました。結果日出町の国道10号線沿いで採取した菜の花がGMナタネであることが明らかになりました。

私たちはGM汚染の広がりにはショックを受け、まず県の農林水産部を訪ねました。県は①輸入港も搾油工場もない大分県での自生は想定外②今後GM関係の窓口を設けたい③県としては2002年に「遺伝子組み換えイネ」を学校給食に使用しないこと、並びに、その承認と表示に関して国への意見書提出を求める請願を採択しているためGM作物との交雑を「問題ない」とは考えていない」との応答でした。

次に、2002年に連名で請願したJA大分県女性組織協議会を訪ねました。検討していただき、今回

も連名で請願できることになりました。協議会会長は「ほんとうは私たち生産者が先頭に立って反対しないといけませんよね」と言われました。2006年12月県議会に向けて請願行動を開始しました。まず議長と2002年請願時の紹介議員になつてくださった2人の議員を訪ねました。しかし、今回は「政調会長を通すように」などの理由で断られました。その後訪ねた政調会長からは「国も予算削減の折、改めての全国実態調査の要望は困難。こういった案件は全会一致がいい。文面修正を」という判断がありました。受けて文面修正の上、2党(社民党と自民党)から1人ずつ紹介議員になっていただき、2月議会に「遺伝子組み換えナタネの自生・交雑の防止に関する意見書提出に関する請願」を提出しました。請願は農林水産委員会と総務企画委員会に付託され、本会議(3/13)では全会一致で採択されました。「国が実施する

調査に、大分県等調査未実施地域について追加調査を行い…」等を要望しています。

今回の県議会への請願はTVや新聞でも報道され、GM汚染のことが県民に伝えられました。しかし輸入港も搾油工場もない大分になぜ、どのようなルートでGMナタネが自生したのか私たちがまだ解明できていません。自生場所近くに肥料工場もあり、問いあわせましたが、抽出ナタネ粕を原料にしているため自生の可能性はほとんどないとのことです。

2007年は72カ所を調査した結果、幸い全部陰性でしたが、今後県へも申し入れをしながら監視と調査の活動をすすめて、自生・交雑の防止が徹底できるようにしていきたいと考えています。

グリーンコープ生協おおいだ
理事長 菅嶋 教代

まいにち生協が
グリーンコープ生協(島根)に
名称変更しました(5月26日付)

読者投稿欄
新テーマで募集中

- 思いがけない家族のひと言
「ひと言」で思わず笑ってしまったり、勇気づけられたりしたエピソードを紹介してください
- とっておきの一枚
楽しかった家族旅行の思い出や、大切な家族の一員でもあるペットの写真にコメントを添えて
- 私の好きな花
大好きな花にまつわるエピソードを紹介してください

●400字程度 ●毎月末
●住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
●住所・氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビル7F
グリーンコープコミュニケーションワーカーズ 連(REN)
「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp

greencoop communication workers

REN 連

グリーンコープに
広報ワーカーズが誕生しました

グリーンコープとかかわってきた組合員17人がそれぞれの想いと希望を胸に、「コミュニケーションワーカーズコレクティブ連(REN)」を誕生させました。「コミュニケーション」とは、人と人が理解し、つながりあうために欠かせないものです。グリーンコープと組合員、組合員と組合員が相互にメッセージを伝えあうことでグリーンコープ運動は広がっていくのだと考えています」と設立趣意書に表現すると共に、その想いを「連(つながりあう・連帯する)」という名に託しました。

グリーンコープの広報媒体である、カタログGREEN、機関紙「共生の時代」、子育て応援総合情報誌「グープ」などの企画・編集を主な業務とし、グリーンコープの共生の理念や食べもの運動を柔らかな言葉で発信していきます。今後、さまざまな分野のワーカーズ同士のコミュニケーションを育んでいく広報活動にも取り組んでいくことにします。

グリーンコープコミュニケーションワーカーズ連(REN)
代表 松田 節子

設立総会
2007年4月14日
福岡市

夢をあきらめない

錦江湾共同作業所

いま地域を考える

No.180

鹿児島県の薩摩半島と大隅半島に挟まれた湾を通称錦江湾という。錦江湾共同作業所は、精神障がい者が本来の元気と自信を取り戻し、社会参加できる力をつける「準備訓練の場」だ。所長の外園美佐雄さん、事務局で精神保健福祉士でもある野角伸子さん（グリーンコープかごしま生協組合員）らに話を聞いた。



活動の頼れる足、軽ワゴン車の前で。
左からスタッフの山川伯明さん、外園美佐雄さん、野角伸子さん、抜迫英子さん



喫茶トロイメ、ある日のランチ。
野菜たっぷりのメニューが好評だ



1987年、精神障がい者を持つ家族が力を合わせて設立したのが錦江湾共同作業所だ。その家族会は試行錯誤を繰り返して4年前に「特定非営利法人鹿児島市精神保健福祉推進の会・かれん鹿児島」となった。建物の老朽化に伴い、今の場所に引っ越してきたのが1年前。作業所は元寿司屋兼住居の二階建てで、住宅や商店の立ち並ぶ町に溶け込むように建っている。引っ越し

から、これまで中々できなかった「地域に根ざした活動」に力を入れることができたようになった。現在通所メンバーは27人。作業所で野菜の販売と園芸、箱折り、エンドウ豆の皮むき、お菓子作りなどを行う。それを支えるスタッフは、常勤職員3人と非常勤1人、ボランティアも随時募集している。学生、ヘルパー研修生の実習も受け入れ、見学者も気軽に訪れる。駐車場でも販売している野菜を、散歩がてら買ってくる住民の中にお馴染みさんも増えてきた。

所外での活動は、公園清掃や障害者職業センターなどへのグループ就労、換気扇・レンジ周りの掃除などの派遣就労がある。それらの活動の頼

れる足となつていのがグリーンコープの福祉活動組合員ワゴン車だ。この車が人と人を結び付けていく絆のような役目を果たしている。

精神障がい者への偏見の言葉としてよく聞かれる。周囲をはじめ、当人、家族の心の中にさえ、初めは偏見がある。そのことがますます精神障がい者の存在を見えにくくしてしまっている。多くの精神障がい者は、思春期以降から20歳前後に発症するという。わが子が精神を患ったことへの動揺、失望、ショックは、気力体力共にもう若くはない親たちに計り知れない負担となる。その事実を受け入れるだけで何年かかるといふ。精神障がいへの療養には時間がかかり、症状に自閉的傾向も見られることが多い。そのため学校や職場といった社会生活の経験が乏しくなりがちだ。また、病気がなくなったことが原因で、就学や就職などに失敗し、それが自信をなくすことにつながる。長期に入院した場合はさらにその影響は強まる。訓練の場に参加できる人はかなり回復段階に入っているとい

外園さんは家族会のメンバー

「社会人として働く権利と責任を果たす。誰かに代弁してもらおうのではなく、拙くても自分の言葉で表現する。その

「望むだけではなく叶えたい」
「社会人として働く権利と責任を果たす。誰かに代弁してもらおうのではなく、拙くても自分の言葉で表現する。そのために悩むことを取り上げたい。」「精神障がい者も普通の人です。世間から離れて過ごす中で、経験が乏しかったり、自分のペースに慣れすぎることもあります。そんな彼らにも社会で通用するような働き方を、収入を得てほしい。」
「そのために、みんなが外に出ていくようにしているという。スタッフに一致した思いはあっても、メンバーや家族がみんな同じ意見でスムーズに運ぶことばかりではない。しかし、自分からここを去っていく人は少ないという。」「最初は短時間就労だったのに、働きぶりが認められ、すぐにフルタイムに替わりました。」「働き先の決まったメンバーが、親子で感謝の気持ちを伝えることが出来る。」「そんな時はとてもうれしい。やっぱり私たちのやっていることは間違っていないと思えるから。」「そう語る外園さんの揺れる瞳が、作業所の存在の大切さを感じさせる。

「望むだけではなく叶えたい」
「社会人として働く権利と責任を果たす。誰かに代弁してもらおうのではなく、拙くても自分の言葉で表現する。そのために悩むことを取り上げたい。」「精神障がい者も普通の人です。世間から離れて過ごす中で、経験が乏しかったり、自分のペースに慣れすぎることもあります。そんな彼らにも社会で通用するような働き方を、収入を得てほしい。」
「そのために、みんなが外に出ていくようにしているという。スタッフに一致した思いはあっても、メンバーや家族がみんな同じ意見でスムーズに運ぶことばかりではない。しかし、自分からここを去っていく人は少ないという。」「最初は短時間就労だったのに、働きぶりが認められ、すぐにフルタイムに替わりました。」「働き先の決まったメンバーが、親子で感謝の気持ちを伝えることが出来る。」「そんな時はとてもうれしい。やっぱり私たちのやっていることは間違っていないと思えるから。」「そう語る外園さんの揺れる瞳が、作業所の存在の大切さを感じさせる。

「望むだけではなく叶えたい」
「社会人として働く権利と責任を果たす。誰かに代弁してもらおうのではなく、拙くても自分の言葉で表現する。そのために悩むことを取り上げたい。」「精神障がい者も普通の人です。世間から離れて過ごす中で、経験が乏しかったり、自分のペースに慣れすぎることもあります。そんな彼らにも社会で通用するような働き方を、収入を得てほしい。」
「そのために、みんなが外に出ていくようにしているという。スタッフに一致した思いはあっても、メンバーや家族がみんな同じ意見でスムーズに運ぶことばかりではない。しかし、自分からここを去っていく人は少ないという。」「最初は短時間就労だったのに、働きぶりが認められ、すぐにフルタイムに替わりました。」「働き先の決まったメンバーが、親子で感謝の気持ちを伝えることが出来る。」「そんな時はとてもうれしい。やっぱり私たちのやっていることは間違っていないと思えるから。」「そう語る外園さんの揺れる瞳が、作業所の存在の大切さを感じさせる。

「望むだけではなく叶えたい」
「社会人として働く権利と責任を果たす。誰かに代弁してもらおうのではなく、拙くても自分の言葉で表現する。そのために悩むことを取り上げたい。」「精神障がい者も普通の人です。世間から離れて過ごす中で、経験が乏しかったり、自分のペースに慣れすぎることもあります。そんな彼らにも社会で通用するような働き方を、収入を得てほしい。」
「そのために、みんなが外に出ていくようにしているという。スタッフに一致した思いはあっても、メンバーや家族がみんな同じ意見でスムーズに運ぶことばかりではない。しかし、自分からここを去っていく人は少ないという。」「最初は短時間就労だったのに、働きぶりが認められ、すぐにフルタイムに替わりました。」「働き先の決まったメンバーが、親子で感謝の気持ちを伝えることが出来る。」「そんな時はとてもうれしい。やっぱり私たちのやっていることは間違っていないと思えるから。」「そう語る外園さんの揺れる瞳が、作業所の存在の大切さを感じさせる。

錦江湾作業所活動内容

- 菓子製造販売**
無添加のクッキーとケーキを手作りし、予算に応じて詰めあわせる
種類の販売
- 清掃作業**
・公園掃除
・換気扇、レンジ周りなどの出張掃除派遣
- 喫茶トロイメ**
(食事作り・配膳)
- 野菜・果物販売**
(週2回月曜日・木曜日)
- エンドウ豆の皮むき**
- ガレージセール**
(月1回第4日曜日)
- 夏祭り、バザー、各種イベントなどへの出店**
- 資源物回収**
新聞紙、雑誌などの古紙回収
- レクリエーション**
ソフトボール、カラオケ、パソコン、読書など
- 季節の花の植え付け**
四季折々の美しい花のプランターを届ける



話をしたり笑いながらも、慣れた手つきで箱折りに集中する

放射能汚染測定結果報告(167) 2007年4月

放射能汚染食品測定室検査。NDは、検出限界値(1ベクレル/kg)以下です。
※は、グリーンコープ連合取り扱い商品です。

検体名	産地	セシウム134	セシウム137	合計ベクレル/kg
※ 乾燥しいたけ	大分県	ND	ND	ND
※ ホワイトソフトマーガリン		ND	ND	ND
※ 純正ごま油	中国	ND	ND	ND
※ 塩紅鮭	アラスカ	ND	ND	ND
※ エコシュリンプ	インドネシア	ND	ND	ND
※ 子持ちしししゃも	北欧	ND	ND	ND

リユース リサイクル データ

回収本数	回収率	回収本数	回収率	回収本数	回収率	回収本数	回収率
933,372本	100.4%	208,984本	70.9%	13,093kg	56.4%	33,340kg	98.3%
牛乳びん		リユースびん		トレー		モールドバック	

2007年5月の組合員数 371328人 (5/20現在)

グリーンコープ生協おほか
グリーンコープ生協ひょうご
グリーンコープ生協おかやま
グリーンコープ生協とっとり
グリーンコープ生協(島根)
グリーンコープ生協くまもと
グリーンコープかごしま生協

グリーンコープ生協おおいた
グリーンコープ生協みやざき
グリーンコープ生協おおさか
グリーンコープ生協ひょうご
グリーンコープ生協おかやま
グリーンコープ生協とっとり
グリーンコープ生協(島根)
グリーンコープ生協くまもと
グリーンコープかごしま生協